

名称の由来

英語名 potassium はデイヴィーの命名であり、「草木灰」potash（ポタシュ）に由来します。potash は「壺」pot と「灰」ash の合成語で、壺のなかの灰を指し、主成分は炭酸カリウム (K_2CO_3) です。pot はケルト語に遡り、ash はインド・ヨーロッパ祖語の「燃える」*as- に遡るようです。

ドイツ語などの名称 Kalium は元素記号 K の元となっています。“kali” は「アルカリ」alkali に由来するもので、元はアラビア語の「(植物の) 灰」قَلْيٌ (qilyun, キルユン) に定冠詞 al が付いたものです。アラビア語の「灰」は、三語根「油で揚げる」q-l-y から派生しています。カリウムの名を採用したのは、スウェーデンの化学者イェンス・ヤーコブ・ベルセリウス (Jöns Jacob Berzelius, 1779–1848) のようです。

アラビア語の定冠詞 al は、「錬金術」(英語で alchemy) や「幾何学」(英語で algebra) でも見ることができます。「アルコール」(英語で alcohol) については、 $_{51}\text{Sb}$ アンチモンの節を参照してください。さらには、 $_{70}\text{Yb}$ イッテルビウムの節に登場する、おうし座の1等星アルデバラン (aldebaran) にも定冠詞 al が付いています。

金属元素名の共通語尾

イギリスの化学者ハンフリー・デイヴィー (Humphry Davy, 1778–1829) が $_{19}\text{K}$ カリウムの命名に使う以降、金属元素の名称に共通語尾として -ium を用いる命名法が定着したといわれています。元素名の語尾のコラムも参照してください。

金属元素名の共通語尾が -ium である理由については、「名詞の性」について考える必要があります。元素名の語源に多く用いられているギリシャ語やラテン語では、名詞は「男性名詞」「女性名詞」「中性名詞」の三つに分類されます。ラテン語では、古代から知られていた金属 ($_{26}\text{Fe}$ 鉄, $_{29}\text{Cu}$ 銅, $_{47}\text{Ag}$ 銀, $_{50}\text{Sn}$ スズ, $_{79}\text{Au}$ 金, $_{80}\text{Hg}$ 水銀, $_{82}\text{Pb}$ 鉛) はいずれも中性名詞であり、語尾は -um で終わります。

す。これを念頭に置いて、新たに金属に命名する際にも、ラテン語の中性名詞の典型的な語尾である **-(i)um** を付けたと考えられます。

名詞の性の由来には様々な俗説や民間伝承がありますが、実際には以下のようなだったといわれています。すなわち、有生的・活動的なものが男性名詞、無生的・不活動的なものが中性名詞、そして抽象的・集合的なものが女性名詞になったというものです。そのことからしますと、不活動的で物質的なものの最たるものである金属が中性名詞になるのも当然のことでしょうか。

金属元素名の共通語尾 **-(i)um** は、空想上の金属の名前をそれらしくするのにもよく用いられます。ウルトラマンシリーズの「スペシウム（光線）」、ガンダムシリーズの「ガンダリウム合金」、『鳥人戦隊ジェットマン』の「バードニウム」など枚挙に暇はありません。ちなみに、スペシウムの設定上の原子番号は133番とされています。

なお、ポーランド語の金属元素名には共通語尾がありません（ポーランド語の元素名のコラムを参照）。余計なお世話ながら、いろいろと不便なこともあると思うのですが。

^{20}Ca カルシウム

金属

英 calcium（キャルシウム） 独 Calcium, Kalzium（カルツィウム）

仏 calcium（カルシヨム） 瑞 kalcium（カルシウム）

希 ασβέστιο（アズヴェスティヨ） 露 кальций（カーリツィイ）

語源を遡ると…ギリシャ語の「小石，砂利」

発見の順番 42番目（同年に ^5B ホウ素， ^{12}Mg マグネシウム， ^{38}Sr ストロンチウム， ^{56}Ba バリウムも発見）